

事業の記録

◇スキー教室(ジュニア・一般・幼児クラス)

1月～2月にほろたちスキー場において、幌加内町スキー連盟指導員会のもと、スキー教室を開催しました。

今年はジュニア 29名、幼児 11名、一般 1名の方々に参加をいただきました。

天気にも恵まれ、元気いっぱいスキーを楽しむ姿が見られました。



◇小・中学生書き初め大会

1月11日(火)幌加内町生涯学習センターにおいて、講師に竹村竜昭氏をお迎えし、小・中学生書き初め大会を開催しました。

今年は例年より参加人数が少なかったのですが、児童たちは竹村講師の指導の下で画仙紙に向かい、のびのびと筆を走らせていました。



書き初め大会の各部門の入賞者は以下のとおりです。

◇小学校低学年の部

優秀賞 古屋 幸起

◇小学校中学年の部

優秀賞 古屋 燈士

◇中学生の部

最優秀賞 北村 柚乃

優秀賞 相澤 寧々

// 森崎優美子

佳作 北村 菜桜

図書室だより



▶ 今月のあたらしい本

● 祝祭のハングマン

中山 七里/著 (文藝春秋)

法律が裁けないのなら、他の誰かが始末する。司法が越えた復讐の代行者—それが〈私刑執行人(ハングマン)〉

警視庁捜査一課の瑠衣は、中堅ゼネコン課長の父と暮らす。ある日、父の同僚が交通事故で死亡するが、事故ではなく殺人と思われた。さらに別の課長が駅構内で転落死、そして父も工事現場で亡くなる。追い打ちをかけるように瑠衣の許へやってきた地検特捜部は、死亡した3人に裏金作りの嫌疑がかかっているという。父は会社に利用された挙句、殺されたのではないかと。だが、証拠はない…。疑心に駆られる瑠衣の前に、私立探偵の鳥海(とかい)が現れる。彼の話聞いた瑠衣の全身に震えが走った一。



● ぼくはなにいろ

黒田 小暑/著 (小学館)

交通事故で体に傷を負って以来、人目を避け孤独に生きていた祥司は、行きつけの居酒屋で一人の女性に出会う。祥司には眩しいほどに快活に見えた千尋だったが、人に言えないトラウマをかけていた。スクラッチの宝くじを削ることだけを生きがいに、父親の文房具店を手伝う孝志郎。文房具の試し書きノートで絵を描き続ける、不登校の絵美。文章で学校の様子を絵美に伝える、口がきけない少年。心を閉ざした若者たちの繊細な人間関係を描き、読む者全ての人生を肯定する大傑作。



・ある愛の寓話

村山 由香/著 (文藝春秋)

・書楼弔堂 待宵

京極 夏彦/著 (集英社)

・今日はいいい天気ですね。

群 ようこ/著 (角川春樹事務所)

生涯学習カレンダー

3月 4日

ワカサギ釣り体験教室

朱鞠内湖